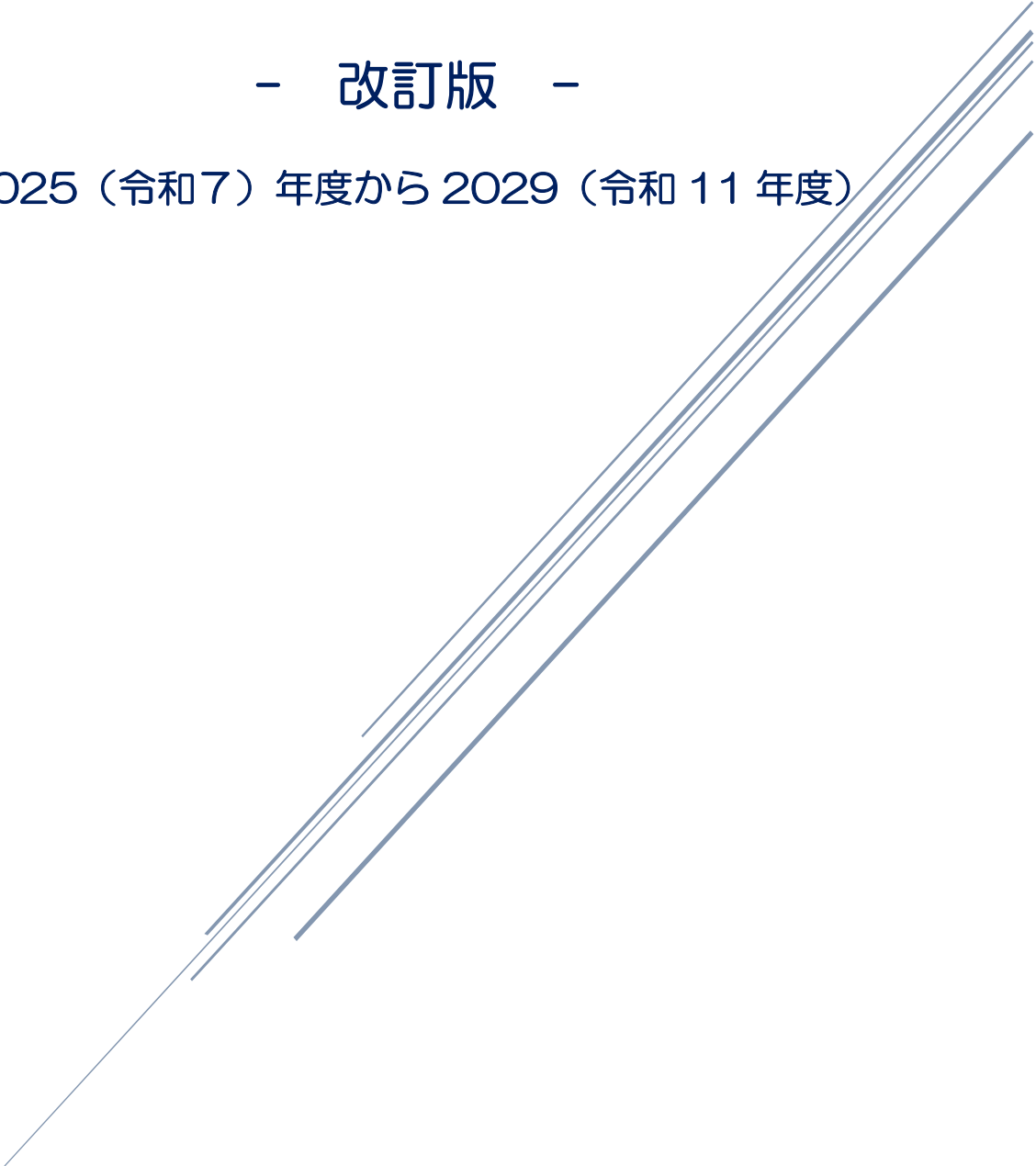


浜松市美術館

運営についての考え方

－ 改訂版 －

2025（令和7）年度から 2029（令和11年度）



目次

はじめに	1
------	---

第1章 概要

1 策定の趣旨	2
2 位置付け	2
3 計画期間	2
4 適用範囲	2
5 取組成果の検証・評価	2

第2章 これまでの歩みと美術館を取り巻く状況

1 これまでの歩み（沿革）	3
2 文化政策を巡る社会情勢	3
3 国の文化芸術施策	3

第3章 これまでの取組に対する成果と課題

1 2020（令和2）年度から2024（令和6）年度の総評	4
2 方針ごとの取組と成果、今後に向けた課題	4

第4章 基本理念と方針（目指す姿）

1 基本理念と方針（目指す姿）	14
-----------------	----

第5章 方針ごとの成果目標と取組内容

1 名品に出会える美術館	15
2 誰もが気軽に立ち寄れる美術館	16
3 幅広く深く学べる美術館	17
4 未来へつながる美術館	18
5 進捗管理	19
6 外部評価有識者	19
7 来館者アンケート	20

はじめに

浜松市美術館は、1971（昭和 46）年 7 月に、市制 60 周年を記念して静岡県内初の公立美術館として自然豊かな浜松城公園内に開館しました。

戦後、市公会堂や市立図書館、市民会館が美術館の役割を一部担いながら、作品を展示したり、美術展を開催したりしていた時代を経て、市民団体からの陳情や要望など美術館建設の機運が高まり、多くの寄附や作品寄贈を受けて「市民の美術館」として誕生しました。

主な館蔵品は、美術館建設に尽力した初代館長である内田六郎氏寄贈の 18～19 世紀の伝統的ガラス絵をはじめ、初代広重、葛飾北斎、歌川派などによる遠江ゆかりの浮世絵版画や、小杉惣市氏寄贈の中国・朝鮮の東洋陶磁、東洋の石仏・金銅仏などを中心に、優れた美術コレクションを約 8,000 点所蔵しています。開館から、企画展・特別展、市展などを含め、およそ 310 回の展覧会を開催し、2025（令和 7）年 3 月までに来館者累計は 319 万人に達しています。

また、1998（平成 10）年 4 月には、浜松市天竜区の日本画家で、文化勲章を受章した秋野不矩美術館が開館しました。自然との調和を表現した設計は、建築家の藤森照信氏によるもので、展示室の壁は漆喰、床は大理石や籐ござが敷かれるなど、他に類を見ない特色ある美術館として、日本全国・海外から多くのお客様が訪れています。2022 年（令和 4）年 4 月からは、指定管理者制度を導入し、民間活力や専門性を活かした経営に取り組んでいます。

「浜松市美術館運営についての考え方」は、2020（令和 2）年 4 月、浜松市のこれからの文化振興施策の方向性を示す『文化振興ビジョン』策定の機会を捉えて、浜松市美術館の基本構想や考え方をまとめたものです。このたび策定から 5 年が経過し、博物館法一部改正や文化芸術を取り巻く社会情勢の大きな変化等を踏まえ、「浜松市美術館運営についての考え方」を見直し、文化芸術のさらなる継承・発展・創造と、浜松市の魅力をより一層高めていくことを目指します。



第1章 概要

1 策定の趣旨

市民の美術に対しての知識及び教養の向上並びに文化の振興に資するため、これまでの取組を振り返り、2025（令和7）年度から5年間の美術振興に関する施策や取組を総合的・体系的に表し進捗管理するものです。

2 位置付け

「浜松市美術館運営の考え方（改訂版）」は、博物館法第3条に掲げる事業実施に対する浜松市美術館運営の考え方を整理するものです。

3 計画期間

『浜松市文化振興ビジョン』における計画期間である「2020（令和2）年度からおおむね10年間」に準拠し、計画の後期期間を「浜松市美術館運営の考え方（改訂版）」の計画年度とします。

『浜松市文化振興ビジョン』									
浜松市美術館運営の考え方					改訂版				
2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)
									

4 適用範囲

浜松市美術館及び浜松市秋野不矩美術館の美術振興にかかる取組を対象とします。

5 取組成果の検証・評価

- (1) 来館者アンケートや、課題解決のための調査を必要に応じて実施します。
- (2) 成果目標を設定し、取組に対する内部評価及び有識者等による外部評価を行い、その評価・検証の結果を公表します。

第2章 これまでの歩みと美術館を取り巻く状況

1 これまでの歩み（沿革）

（1）浜松市美術館

- 1971（昭和 46）年 7 月 浜松城公園内に開館
- 2005（平成 17）年 7 月 市町村合併
- 2016（平成 27）年 12 月 引佐地域遺産センター1 階を改修し、収蔵庫を増設
- 2018（平成 29）年 3 月 空調設備改修及びトラックヤード設置
- 2022（令和 4）年 4 月 来館者 300 万人を達成
- 2024（令和 6）年 4 月 文化財保護法第 53 条の規定に基づく公開承認施設に認定

（2）秋野不矩美術館

- 1998（平成 10）年 4 月 天竜市二俣（現浜松市天竜区二俣町）に開館
- 1999（平成 11）年 11 月 秋野不矩文化勲章受章
- 2021（令和 3）年 11 月 来館者 100 万人を達成
- 2022（令和 4）年 4 月 指定管理者制度導入

2 文化政策を巡る社会情勢

日本の人口は年々減少しており、2023（令和 5）年 10 月には総人口に占める 65 歳以上の割合は 29.1%、2070 年には総人口が 9,000 万人を割り込み、高齢化率は 39.0%の水準になると予想されています。また、グローバル化が進み、海外の情報に容易にアクセスし、人や物が国を超えて行き来しやすくなったことや、インターネットや SNS の普及、在留外国人や外国人観光客等の増加により、海外との距離は以前と比較して著しく近くなりました。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり AI・ICT 技術活用が身近なものになるなど、社会のデジタル化が急速に進んだことにより、人々の暮らしや価値観に大きな変化をもたらしました。そうした生活環境の多様化に伴い、芸術の表現やアートに対する概念は日々拡大しています。様々な時代の変化に柔軟に対応しながら、社会や地域の活力向上に寄与する取組が美術館に求められています。

3 国の文化芸術施策

美術館を含む博物館は、社会教育法において「社会教育のための機関」の一つに位置付けられています。これを踏まえ、博物館法は「社会教育法の精神に基づき」定めるものと明記され、国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的としています。

また、2022（令和 4）年の博物館法一部改正では、2017（平成 29）年に公布・施行された文化芸術基本法の精神にも基づくと改められ、博物館・美術館等は、文化芸術そのものの振興に留まらず、地域の生涯学習活動、国際交流、観光等の推進など幅広い役割を有するとともに、教育機関・福祉機関・医療機関等との関係団体と連携し、様々な社会的課題を解決する場としてその役割を果たすことが明確に示されています。

第3章 これまでの取組に対する成果と課題

1 2020（令和2）年度から2024（令和6）年度の総評

世界的な広がりを見せた新型コロナウイルス感染症の流行が、文化芸術活動に大きな影響を及ぼしましたが、2023（令和5）年5月に第5類へ移行したことから、美術館は少しずつこれまでの賑わいを取り戻しています。

2020（令和2）年度から2024（令和6）年度の5年間では、日本画、洋画、浮世絵、アニメーション原画、仏像などジャンルの異なる展覧会をバランスよく開催し、幅広い世代の方が美術館を訪れました。館蔵作品や、作品に関する調査研究の成果を積極的に公開し、市民の財産であるコレクションのすばらしさ・魅力を広く周知することで、シビックプライドの醸成・地域活力の向上に取り組みました。

また、展示内容に応じた講演会や教育プログラム、出張講座では、多くの方に文化芸術に親しみ理解を深める機会を提供しました。

収集保存・調査研究・展示公開・教育普及などのサイクルを循環し、着実に積み重ねながら、「誰もが気軽に美術と出会い、新たな気づきや学びを深め、明日への希望を見出す美術館」としての使命を達成しました。

2 方針ごとの取組と成果、今後に向けた課題

（1）今日も名品に出会える美術館

2020（令和2）年度から2024（令和6）年度の実施内容

1. 国内外の優れた作品を鑑賞できる展覧会の開催
2. 地域ゆかりの作品やコレクションを年間通じて鑑賞できる機会を提供
3. わかりやすい情報発信、ユニバーサルデザイン化や多様な媒体の活用推進
4. デジタルアーカイブの推進
5. 年間の美術館活動をまとめた年報の発行、公表

《5年間の取組と成果》

国内外の優れた作品を鑑賞できる展覧会を企画し、開催するとともに、地域ゆかりの作品や館蔵作品を鑑賞できる機会を提供しました。来館者アンケートでは、「展覧会に満足した、やや満足した」と肯定的な回答をした方が5年間で平均して90%以上となりました。また、展覧会や美術館の活動は、ホームページやSNSを活用し広報の充実を図るとともに毎年度の美術館の活動は、年報にまとめ公表しています。



▲美術館年報

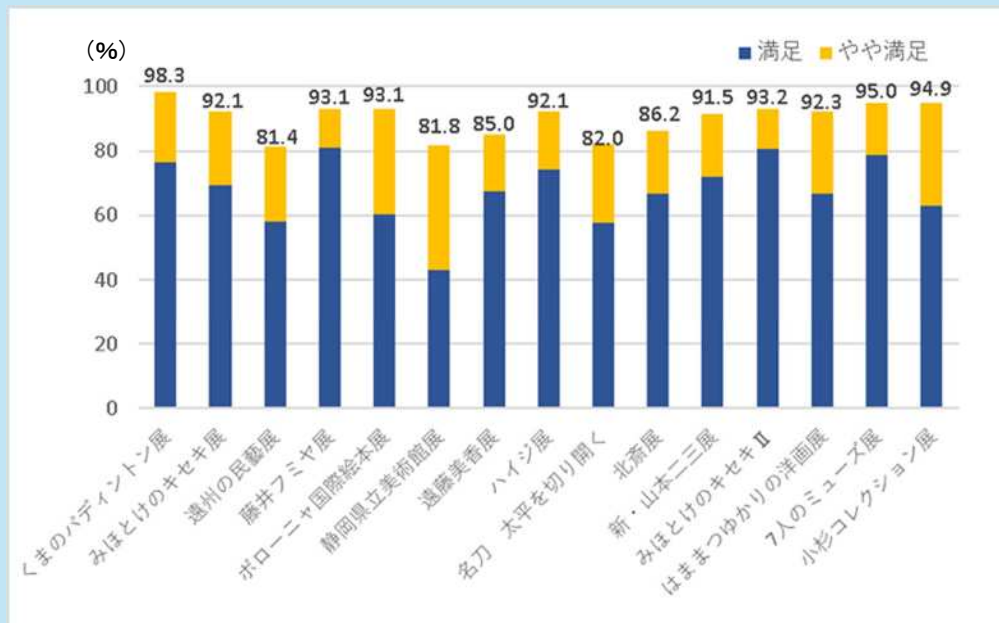
●2020（令和2）年度から2024（令和6）年度に開催した展覧会一覧

（単位：人）

年度	展覧会名	開催期間	来館者数
2020年度 （令和2年度）	企画展「仲山計介展」	2020年4月25日～6月14日	1,915
	特別展「くまのパディントン展」	2020年7月11日～9月13日	16,225
	館蔵品展「はままつゆかりの収蔵品展」	2020年7月11日～9月13日	16,225
	企画展「国芳・芳年浮世絵展」	2020年9月26日～11月8日	19,179
	館蔵品展「館蔵品展」	2020年11月24日～12月20日	1,825
	公募展「第68回市展」	2021年2月2日～2月12日	6,144
2021年度 （令和3年度）	企画展「みほとけのキセキ展」	2021年3月25日～4月25日	23,069
	館蔵品展「名硯・名仏展」	2021年5月1日～5月9日	1,254
	企画展「遠州の民藝展」	2021年5月15日～6月27日	4,856
	特別展「藤井フミヤ展」	2021年7月13日～8月22日	14,706
	館蔵品展「中国の石仏－小杉コレクションより－」	2021年7月13日～8月22日	14,706
	特別展「イタリア・ボローニャ 国際絵本画展」	2021年10月2日～10月31日	6,171
	企画展「静岡県立美術館コレクション展」	2021年11月13日～12月19日	8,138
	公募展「第53回子どもの市展」	2022年1月13日～1月19日	3,425
	館蔵品展「謹賀新年 寅年を寿ぐ」	2022年1月13日～1月19日	3,425
	公募展「第69回市展」	2022年2月11日～3月1日	3,219
2022年度 （令和4年度）	館蔵品展「新収蔵品 佐々木松次郎作品」	2022年2月11日～3月1日	3,219
	企画展「遠藤美香展－ここに根をはれ－」	2022年4月22日～6月19日	4,454
	館蔵品展「佐々木松次郎」	2022年4月22日～6月19日	4,454
	企画展「ハイジ展 あの子の足音がきこえる」	2022年7月9日～9月11日	16,287
	企画展「名刀 泰平を切り開く－戦国から江戸へ－」	2022年10月15日～12月4日	10,204
	館蔵品展「青磁展」	2022年10月15日～12月4日	10,204
	公募展「第54回子どもの市展」	2023年1月5日～1月20日	12,013
	館蔵品展「山本貞次郎」	2023年1月5日～3月15日	16,278
2023年度 （令和5年度）	公募展「第70回市展」	2023年2月14日～3月15日	4,265
	特別展「北斎展一師と弟子たち」	2023年4月22日～6月11日	13,827
	館蔵品展「劉生展」	2023年4月22日～6月11日	13,827
	特別展「新・山本二三展」	2023年7月8日～9月10日	42,809
	企画展「みほとけのキセキⅡ －遠州・三河のしられざる祈り－」	2023年10月14日～12月3日	13,819
	館蔵品展「みほとけ」	2023年10月14日～12月3日	13,819
	公募展「第55回子どもの市展」	2024年1月4日～1月19日	4,371
	館蔵品展「辰年を寿ぐ展」	2024年1月4日～3月13日	15,695
2024年度 （令和6年度）	公募展「第71回市展」	2024年2月10日～3月13日	11,324
	特別展「浜松ゆかりの洋画展・ひっぱりだこ展」	2024年4月13日～6月2日	6,815
	館蔵品展「金銅仏－小杉コレクション－」	2024年4月13日～6月2日	6,815
	特別展「7人のミューズ展」	2024年6月22日～9月15日	19,531
	館蔵品展「金銅仏－小杉コレクション－」	2024年6月22日～9月15日	19,531
	企画展「小杉コレクション展」	2023年10月12日～12月15日	4,217
	館蔵品展「金銅仏－小杉コレクション－」	2023年10月12日～12月15日	4,217
	公募展「第56回子どもの市展」	2024年1月8日～1月22日	11,274
	館蔵品展「北川民次とメキシコ展」	2024年1月8日～3月26日	4,811
	公募展「第72回市展」	2024年2月22日～3月26日	16,085

※網掛けは館蔵品展及び館蔵作品を含む展覧会

●2020（令和2）年度から2024（令和6）年度来館者アンケートによる展覧会満足度



《今後の課題・検討事項》

館蔵コレクションの鑑賞機会提供について、常設展示を行っていないため、「年間を通じた」鑑賞機会の提供という目標は達成できませんでしたが、展覧会内容と関連した館蔵作品を小展示室で企画展示するなど、積極的な活用に努めました。（P5 参照）これからも館蔵作品を鑑賞する機会拡充に向けた取組を継続します。

一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、密を避けるため大人数が集まるイベントや展覧会等の活動が制限される中、ピープルカウンターを導入し館内の混雑状況をホームページ等で発信するなど、サービス向上に努めたものの来館者数は大きく落ち込み、目標来館者を達成することはできませんでした。

今後は、親しみやすくわかりやすい情報発信に取り組みながら、音声ガイド導入や、映像を活用した展示解説、ギャラリートークの動画配信など様々なニーズに応える取組を検討します。さらに、館蔵作品に関する情報の公開や、その情報の内容充実を図るなどデジタルアーカイブの推進にも取り組みます。



▲ピープルカウンター

(2) 誰もが気軽に立ち寄れる美術館

2020（令和2）年度から2024（令和6）年度の取組内容

1. 散策や観光の後、気軽に立ち寄り美術を感じられる無料エリアの創設
飲食ゾーンやブックスゾーン、無料Wi-Fiエリアなどの簡易アメニティエリアの検討
2. 駐車場からの誘導路の整備や園内施設との連携
3. 観光シーズンや学期休みに合わせた企画運営
4. 年間を通じて地域ゆかりの作品や館蔵コレクションを鑑賞する機会の提供
5. 文化・芸術の向上に資する市展の開催・工夫

《5年間の取組と成果》

浜松城公園と連携した駐車場案内や、美術館までの道のりを示す看板設置などにより、スムーズな誘導となるよう環境整備に努めました。また、観光シーズンや長期休みに合わせた展示内容・会期を設定し、これまで美術館を訪れることが少なかった方が興味を持ち、足を運ぶきっかけとなるような展覧会を企画しました。（P5 参照）



◀美術館駐車場案内看板



浜松城公園内▶美術館案内看板

浜松市在住・通勤する方からの応募作品を展示する市展では、英語・ポルトガル語版募集要項の作成や、館内レイアウト図を配置するなど、市民の創作活動の意欲向上や、鑑賞機会の提供につながるよう運営の改善を重ねています。



第72回市展▶

《今後の課題・検討事項》

カフェなどの休憩スペースの設置は、来館者アンケートでは最も多い要望の一つですが、浜松市美術館には、カフェ営業のための設備がなく、また展示替えのための閉館期間があり常時営業できないことから、出店可能な事業者が見つからないなどの課題があります。展示室やロビーに椅子を配置したり、展覧会企画に沿ったイベントを実施したりするなど、引き続きゆくりと楽しみながら過ごしていただける工夫を検討します。

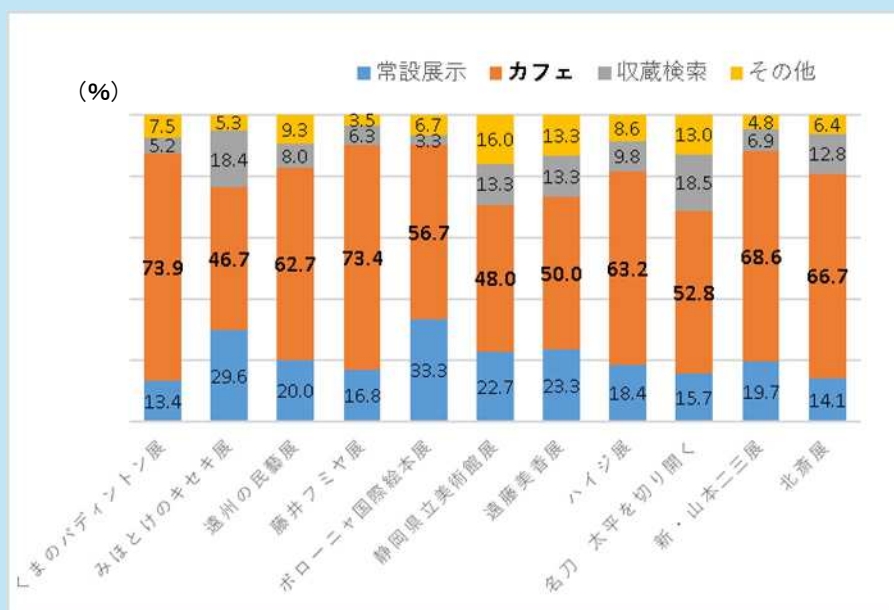


▲浜松市美術館ロビー

浜松市美術館と秋野不矩美術館は、駐車場から建物までの距離がやや長いため、負担に感じるという声があることから、必要な方への思いやり駐車場の案内や館内のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、浜松城公園内の美術館、天竜区二俣市街を望む丘の上の美術館としての利点を生かした観光や散策を提案するなど、来館者に楽しんでいただける環境づくりに取り組む必要があります。

市展においては、学生や、芸術関連の教室・サークルなどに呼びかけを行い、さらに多くの市民が文化芸術に親しむ機会となるよう広報活動の充実を図ります。

●2020（令和2）年度から2024（令和6）年度来館者アンケートによる「望む設備」



(3) 幅広く深く学べる美術館

2020（令和2）年度から2024（令和6）年度の取組内容

1. 本物の作品を見て感じ考える学習機会の提供や、地域ゆかりの作品を学ぶ講座の実施に向けた教育機関との連携
2. 市立小中学校及び幼稚園と連携した「子どもの市展」の開催
3. 市内小中高等学校の教員を対象とした授業等で役立つ美術館講座の開催
4. 職場体験（小中学生）及び博物館実習の受け入れ
5. 地域の学校や福祉施設等における出張講座の開催
6. 地域ゆかりの作品や地域文化について学べる展覧会や関連講座の開催
7. 展覧会の内容を幅広く学び理解するためのイベントの開催
8. 美術館ボランティア募集による市民とともに歩む美術文化の振興
9. 展覧会展示方法の工夫や音声ガイド等の活用など作品理解を深めるための取組の推進
10. 文化施設や他分野（クリエート浜松や鴨江アートセンター等）との、互いの役割を踏まえた連携の推進

《5年間の取組と成果》

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、一時は団体鑑賞の申込が減少しましたが、学校向け校外学習等の活用を案内したり、教員研修を実施したりするなど教育機関等との連携充実を図りました。第5類移行後は、団体申込数も回復傾向にあります。また、学校への出張講座や協働センター等の出前講座など、要望に応じて、幅広い年齢層に文化芸術を学ぶ機会を提供しました。



展覧会では、内容に応じてギャラリートークや講演会、ワークショップを開催し、展示作品や作家活動に対する理解をさらに深めるとともに、芸術に親しむ体験となるよう企画しました。

博物館実習や中学生の職場体験は、毎年度積極的に受け入れており、美術館の業務や学芸員の仕事の魅力などを伝えています。

2024（令和6）年度からは、新たに学芸員の専門性を生かした「学芸員講座」を開催し、日頃の調査研究の成果などを報告、発表し、市民をはじめとする来館者が知識を涵養できる機会の充実を図っています。

●2020（令和2）年度から2024（令和6）年度教育普及活動実績

（単位：人）

年度／区分	団体鑑賞	講演会	ギャラリートーク	ワークショップ	出前講座	体験・実習等	学芸員講座
2020年度（令和2年度）	0	53	0	0	0	0	－
2021年度（令和3年度）	2,344	421	290	70	767	2	－
2022年度（令和4年度）	586	122	291	73	160	9	－
2023年度（令和5年度）	2,432	326	545	56	1,476	91	－
2024年度（令和6年度）	794	118	449	106	185	71	138

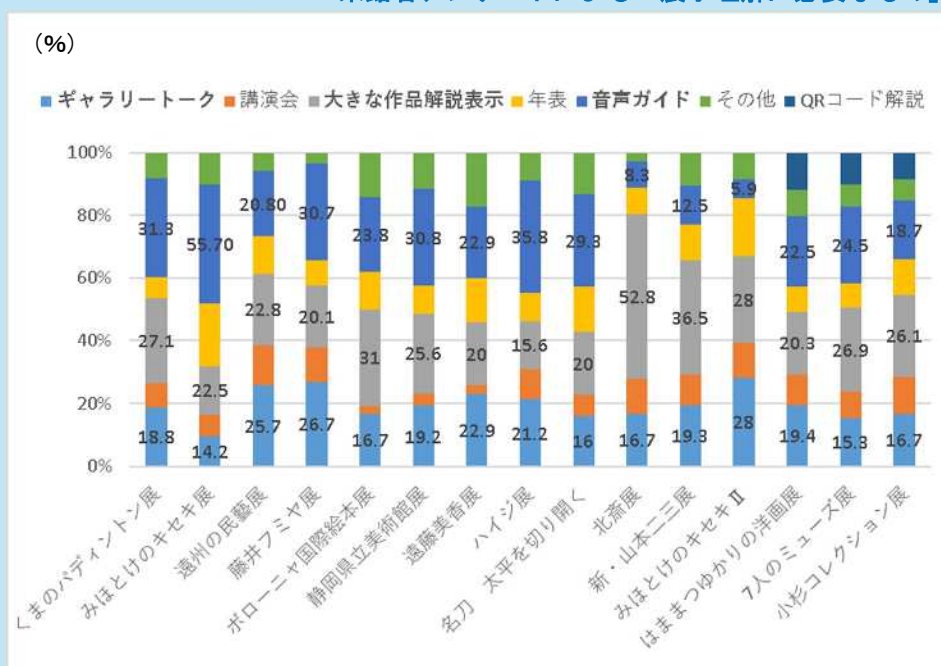
≪今後の課題・検討事項≫

来館者アンケートによる「展示会満足度」の肯定的な回答割合は90%以上であり（P6参照）、高い割合を示していますが、「展示理解に必要なもの」として、ギャラリートークや、大きな作品解説表示、音声ガイドなどに対する要望が多いことから、今後もわかりやすい展示に向けて取組を進める必要があります。（P10参照）

また、文化施設や外部機関との連携推進について、市内の大学（聖隷クリストファー大学、浜松学院大学、静岡文化芸術大学）との連携講座は継続的に実施しているものの、今後は、さらに多くの関係施設・団体との交流を深め、地域の活性化を担う拠点としての役割を果たしていくことが重要です。

●2020（令和2）年度から2024（令和6）年度

来館者アンケートによる「展示理解に必要なもの」



(4) 未来へつなげる美術館

2020（令和2）年度から2024（令和6）年度の実施内容

1. 作品の調査や研究の継続及びその成果の公表
2. 近現代美術の流れを展望できる作品や郷土に関わりのある作品の収集
3. OJT や OFFJT などを通じた学芸員の人材育成
4. 憩いの交流エリアの創設や通年の館蔵品展示、ボランティア活用などへのチャレンジ
指定管理者制度、公開承認施設制度の導入
5. 親切丁寧な接遇研修の実施及び美術館に寄せられる来館者の声の収集分析

※OJT（オンザジョブトレーニング）…職場での実務を通して知識やスキルを習得する人材育成

※OFFJT（オフザジョブトレーニング）…職場や日常業務から離れて研修や学習等を行う人材育成

＜5年間の取組と成果＞

2023（令和5）年度平常展「劉生展」において、劉生と浜松の関係性と同時期の「新しき村運動」を紹介したところ、劉生を支援した山本貞次郎氏のご遺族からの連絡があり、貴重な資料の提供を受けました。その研究成果は、2024（令和6）年度企画展「浜松ゆかりの洋画展」において報告することができ、郷土ゆかりの作家を調査研究し、その成果を展覧会で市民に還元するという美術館のあるべき活動が実を結びました。

同じく2023（令和5）年度企画展「みほとけのキセキⅡ」においては、遠州・東三河地域の「しられざる仏像」の存在を広く周知し、調査研究の過程で様々な知見が見出されました。研究の成果は、図録掲載論考・解説に生かしているほか、研究紀要や関係書籍等において発表しています。

また、2020（令和2）年度から2024（令和6）年度までの間に、審査会を経て、近現代の流れを展望できる作品や郷土にかかわりのある作品を1点購入、99点寄贈により収集しました。新収蔵作品は、調査研究を進め、今後の展覧会において活用します。

●2020（令和2）年度から2024（令和6）年度購入・寄贈資料

年度	購入		寄贈	
	点数	作品	点数	主な作品
2020年度 （令和2年度）	0	-	22	仲山計介「四季日月山水図屏風」、 ミズテツオ「いわないけれどあおげばとおとし」 など
2021年度 （令和3年度）	0	-	44	佐々木松次郎「マリア観音」、 柳澤紀子「原風景への旅」など
2022年度 （令和4年度）	0	-	2	遠藤美香「みちびかれて」「紅葉」
2023年度 （令和5年度）	0	-	21	原田京平「鮎婦の秋」、 佐々木松次郎「大和 法起寺」、 山下青崖「花鳥図屏風」など
2024年度 （令和6年度）	1	山本二三「桜舞う浜松城」	10	福井利佐「浜松」など

施設は開館から 53 年を迎えましたが、日常的に点検を実施し不具合が生じた箇所は、速やかに修繕を行い、より良い鑑賞環境の維持に努めています。2024（令和 6）年 3 月には、文化庁から公開承認施設として認められ、国宝・重要文化財の展示などにおける手続きが簡略化されることから、今後はその機能を最大限に活用し一層の展示活動の充実を図ります。

秋野不矩美術館では、2022（令和 4）年度から指定管理者制度を導入し、民間のノウハウや専門性を生かした経営に移行して 2023（令和 5）年度には前年度の来館者数を上回りました。

●2020（令和 2）年度から 2024（令和 6）年度に開催した秋野不矩美術館展覧会一覧

（単位：人）

年度	展覧会名	開催期間	来館者数
2020年度 （令和2年度）	特別展「花と緑の日本画展」	7月4日～ 8月23日	6,960
	所蔵品展	8月29日～10月18日	3,506
	所蔵品展	11月10日～12月13日	2,219
	所蔵品展	12月19日～2月14日	1,507
	所蔵品展	3月2日～ 3月21日	1,618
2021年度 （令和3年度）	特別展「生誕120年 高橋周桑 ーモダンとロマンー」	5月29日～ 7月11日	2,857
	特別展「生誕100年 回顧展 石本正展」	10月30日～12月19日	4,803
	所蔵品展	4月 6日～ 5月 9日	2,624
	所蔵品展	7月17日～ 9月 5日	2,887
	所蔵品展	9月10日～10月24日	3,380
	所蔵品展	1月 7日～ 2月27日	1,803
	所蔵品展	3月 4日～ 3月31日	2,004
2022年度 （令和4年度）	特別展「インドに魅せられた2人展」	7月16日～ 8月21日	3,778
	特別展「源氏物語 五十四帖展」	10月8日～11月27日	6,440
	特別展「中村正義展」	1月28日～ 3月19日	3,719
	所蔵品展	4月12日～ 5月8日	2,106
	所蔵品展	5月14日～ 6月26日	1,947
	所蔵品展	9月2日～ 9月25日	1,395
	所蔵品展	12月10日～ 1月15日	1,280
	所蔵品展	3月25日～ 4月16日	736
2023年度 （令和5年度）	特別展「アジアの神々展」	6月17日～ 7月30日	4,013
	特別展「加山又造と継承者たち」	9月16日～11月5日	4,869
	特別展「上村松篁/挿絵原画展」	2月10日～ 3月24日	5,414
	所蔵品展	4月22日～ 5月28日	2,302
	所蔵品展	8月2日～ 9月3日	1,732
	所蔵品展	11月14日～12月24日	2,212
	所蔵品展	1月4日～ 1月31日	916
2024年度 （令和6年度）	特別展「内田めぐり」	4月27日～6月23日	4,297
	特別展「日本画☆動物園」	8月3日～9月16日	9,407
	特別展「秋野不矩と高畑郁子」	1月25日～3月16日	
	所蔵品展	4月2日～4月14日	530
	所蔵品展	7月2日～7月21日	976
	所蔵品展	10月5日～11月17日	3,172
	所蔵品展	12月3日～1月13日	
	所蔵品展	3月25日～	

※2022（令和4）年度から指定管理制度導入

《今後の課題・検討事項》

引き続き地域ゆかりの作品や作家の調査研究を進め、その成果を来館者へ還元できるよう取り組みます。市の収集方針に沿って、必要な作品の収集を進める一方で、寄贈や購入により、館蔵品は年々増加していくため、適正なコレクション管理に向けた指針の策定や、具体的な取組の検討を進めていく必要があります。

また、学芸員の専門性向上のため、日常的に OJT・OFFJT を行っていますが、業務の成果が個人の知識・経験に止まってしまう傾向のある業種・職種でもあることから、ノウハウを受け継いでいく方法の確立、他館や外部連携による研修への参加など人材育成に関する仕組みの構築が課題です。

来館者アンケートについては、結果を集計し館内で共有していますが、次の展覧会企画や展示方法、運営・経営に反映するなど、今後のよりよい美術館運営に向けてさらに活用していく必要があります。

秋野不矩美術館では、2028（令和 10）年に秋野不矩生誕 120 周年を迎えます。浜松市美術館はもとより、ゆかりのある関連美術館や作家と連携し、改めて秋野不矩の画業を顕彰し、その功績を後世に伝える展示や活動に取り組みます。

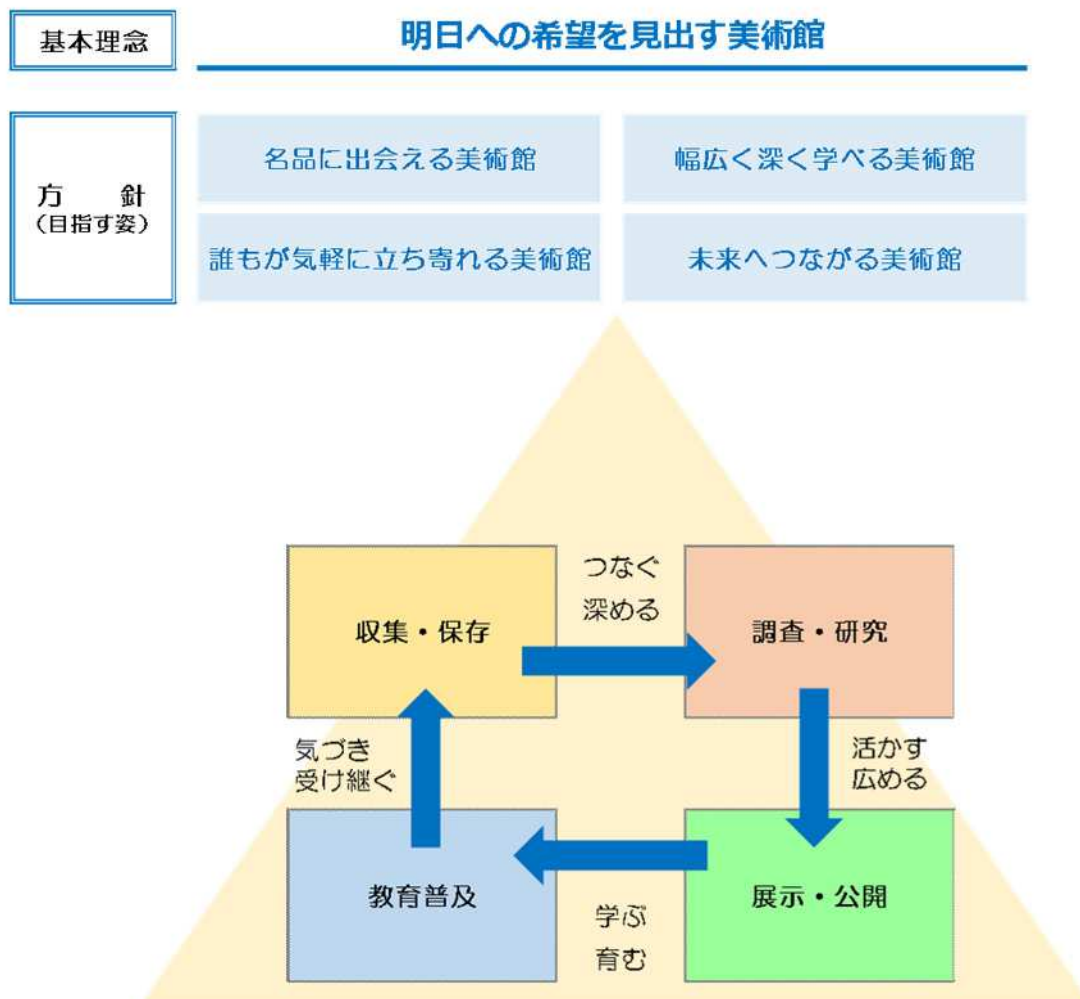


▲秋野不矩美術館

第4章 基本理念と方針（目指す姿）

1 基本理念と方針（目指す姿）

2020（令和2）年度からの「浜松市美術館運営についての考え方」における基本理念・方針（目指す姿）を引き継ぎ、基本理念や目指す姿の実現に向けて、これまでの取組に対する課題や検討事項を踏まえ、具体的な取り組みを見直します。



私たちは、誰もが気軽に立ち寄り、すばらしい芸術や文化に出会える場所として、美術資料の「収集・保存」「調査・研究」「展示・公開」「教育普及」に取り組みます。未来へつながる芸術や文化の伝承と、新たなアート表現への理解を積み重ねながら、展覧会や講演会、ワークショップなどの教育プログラムの充実を通して、深い学びと体験、感動と発見を訪れる方と共有し、明日への希望を見出すことのできる美術館を目指します。

第5章 方針ごとの成果目標と取組内容

1 名品に出会える美術館

《成果目標》	
・ 展覧会来館者数	50 万人（R2～R6 来館者数 ： 427, 751 人）
・ 「展覧会満足度」における肯定的回答	95%以上（R2～R6 平均満足度： 90.1%）
・ 館蔵作品の鑑賞機会	25 回以上（R2～R6 実績 ： 24 回）
・ 収蔵品データベースの公開件数	全点公開（R2～R6 公開件数 ： 1, 252 点）

※「」括弧書きは来館者アンケートに基づく指数

ア 収 集

訪れる度に新しい発見と感動がある名品やお気に入りの作品に出会える美術館として、館蔵コレクションの充実と活用を図ります。

《取組内容》
近現代美術の流れを展望できる作品や郷土に関わりのある作品の収集
<u>拡充</u> 館蔵品台帳の整備及びデジタルアーカイブの推進
<u>新規</u> 活用を想定した中長期的な収集計画の策定
<u>新規</u> 収集方針を含むコレクション管理にかかる準則等の見直し・策定

イ 展 示

国内外の優れた作家や作品などの展覧会、館蔵コレクション展、浜松ゆかりの作家や作品などの展覧会、ポップカルチャーなど多様で新しいアートの展覧会をバランスよく開催し、デジタルを活用するなど時代のニーズに合った質の高い展覧会を目指します。

《取組内容》
地域ゆかりの作品やコレクションを鑑賞できる機会を提供
国内外の優れた作品を鑑賞できる展覧会の開催
<u>拡充</u> 新収蔵品の公開及び調査研究成果の還元
<u>新規</u> 館蔵コレクションの活用方針及び展示計画の策定

2 誰もが気軽に立ち寄れる美術館

《成果目標》

- ・「来館頻度」新規来館（1回目）の割合 30%以上（R2～R6 展覧会平均：30.2%）
- ・「美術館施設・展示環境に対する満足度」における肯定的回答割合
80%以上（R2～R6：－）
- ・「展覧会情報取得方法」におけるSNSの割合 10%以上（R2～R6 平均：4.7%）
- ・市展応募作品点数 毎年 320 点以上（R2～R6 平均：307.2 点）

※「」括弧書きは来館者アンケートに基づく指数

ウ 企画・広報

様々な客層が楽しめる展示をバランスよく開催し、観光シーズンや学期休みに合わせた企画運営を行います。メディア媒体を活用するほか、戦略的にSNSを活用して展覧会やイベント等を広報し、「美術館を知る・足を運ぶ」きっかけをつくります。

《取組内容》

- | | |
|----|----------------------|
| 拡充 | 観光シーズン等における団体利用の促進 |
| 新規 | 新規来館者に向けた展示・イベントの充実 |
| 新規 | SNS 拡散を意識した広報戦略の展開 |
| 新規 | 観光やインバウンド需要に応じたPRの充実 |

エ 環境・施設整備

誰もが芸術や文化を楽しめる場所として、施設のUD化を推進するとともに、合理的配慮の実現に取り組めます。また、館内施設は、訪れる人が安心かつ快適に過ごせるよう日常的に点検整備を行い、鑑賞環境の充実に努めます。

《取組内容》

- | | |
|----|--|
| 新規 | UD化の推進（車いす、ベビーカー、多目的トイレの定期的な点検整備、ピクトグラム表示の充実、多言語翻訳・やさしい日本語解説、授乳スペースの確保等） |
| 新規 | 合理的配慮実現のための環境整備、事例研修等の開催（音声ガイド導入、Wi-Fi 整備など）
浜松城公園との連携による駐車場から館内までの道のりの負担改善 |
| 拡充 | 外壁改修及び照明LED化等の施設機能の維持向上 |

※UD（ユニバーサルデザイン）…能力や年齢、国籍、性別などの違いを超えて、すべての人が過ごしやすい環境づくりを行っていかうとする考え方

※合理的配慮 …………… 障がいのある方からの求めに応じて負担になり過ぎない範囲で社会的障壁を取り除くために必要な配慮

オ 市展開催

美術の創作と鑑賞を勧め、郷土の文化・芸術の向上を図るため、広く市民から作品を募集し、市展を開催します。

《取組内容》

- | |
|-------------------|
| 文化・芸術の向上に資する市展の開催 |
| 市民の市展応募意欲の醸成 |

3 幅広く深く学べる美術館

《成果目標》	
・「展示内容への理解が深まった」と回答した方の割合	90%以上（R2～R6：－）
・「講演会、教育プログラム等の満足度」における肯定的回答の割合	90%以上（R2～R6：－）
・「市の財産である名品の鑑賞を通して市の魅力を知った、気づいた」と回答した方の割合	90%以上（R2～R6：－）
・関係機関との連携・協働をきっかけとして「文化芸術や美術館への興味が高まった」と回答した方の割合	90%以上（R2～R6：－）

※「」括弧書きは来館者アンケートに基づく指数

カ 教育普及

多くの方に文化芸術に親しみ理解を深めるきっかけを提供し、豊かな情操を養います。

《取組内容》
本物の作品を見て感じ考える学習機会の提供（校外学習など）
地域ゆかりの作品や文化を学ぶ講座の実施に向けた教育機関との連携
教員の資質向上に向けた研修・講座の実施
次世代育成に向けた職場体験及び博物館実習等の受入れ
文化芸術への理解を深めるための講演会及び教育プログラムの実施
展示内容への理解を深めるための展示方法の工夫や音声ガイド等の導入

キ 資料公開

市民の財産である館蔵品の公開・活用機会の充実を図ります。

《取組内容》
<u>再掲</u> 館蔵コレクションの活用方針及び展示計画の策定
<u>新規</u> 適切な管理・取扱いを条件とした活用・特別観覧への協力
<u>新規</u> 館蔵作品の資料価値や研究成果等の積極的な公開

ク 関連機関等との連携・協働

他文化施設や地域の多様な機関と連携し、地域活力の向上に寄与します。

《取組内容》
他文化施設と連携・協働による地域活力向上に向けた取組の実施
<u>新規</u> 生涯学習・国際交流・観光等の拠点として、地域ゆかりの作品や文化の魅力発信
福祉機関・医療機関等との連携した地域文化の振興

4 未来へつながる美術館

《成果目標》

- ・（再掲）「展覧会満足度」における肯定的回答 95%以上
(R2～R6 平均満足度： 90.1%)
- ・（再掲）収蔵品データベースの公開件数 全点公開（R2～R6 実績：1,252 件）
- ・「展覧会スタッフの対応満足度」における肯定回答の割合
90%以上（R2～R6 平均満足度：75.6%）
- ・ 秋野不矩美術館来館者数 10 万人以上（R2～R6 実績：97,409 人）

※「」括弧書きは来館者アンケートに基づく指数

ケ 保存・修復

美術作品等の適切な保存環境を維持し、良好な状態で次世代へ継承するため、日常の安全管理を徹底するとともに、定期的に劣化状態を把握し修繕や望ましい管理を検討します。

《取組内容》

展示室・収蔵庫内の良好な環境維持（光・温湿度・衛生管理等）

新規 作品の修繕・修復にかかる中長期的な計画の策定

再掲 収集方針を含むコレクション管理にかかる準則等の見直し・策定

再掲 館蔵品台帳の整備及びデジタルアーカイブの推進

日常の安全管理マニュアルの見直し（点検、施錠、鍵管理、入退室確認など）

緊急時対応マニュアルの見直し、防災訓練の定期実施

コ 調査・研究

館蔵作品や地域ゆかりの作家活動の調査研究を継続し、文化や時代のつながりとなる新たな視点を示します。

《取組内容》

再掲 館蔵作品等に対する調査研究の継続・伝承・公表

地域ゆかりの作家及び作品の発掘

サ 人材育成・研修の充実

美術館事業の充実・発展のため、学芸員や美術館スタッフの能力向上や、人材育成に取り組めます。

《取組内容》

新規 学芸員の専門性向上と人材育成・ノウハウの継承

新規 展覧会運営スタッフの接遇・対応力向上研修の実施

シ 運営

美術館の使命を達成するため、業務の改善や運営の見直しに取り組みます。

《取組内容》
外部評価の実施及び結果の公表
日本博物館協会等関連団体との連携
新規 博物館登録の更新
拡充 美術館に寄せられる来館者の声の収集分析
新規 公開承認施設認定を活用した美術館の運営経営
新規 指定管理者制度の安定的な運営管理（秋野不矩美術館）
新規 新美術館建設に向けた検討

5 進捗管理

浜松市美術館の基本理念、目指す姿を実現するため、毎年度の取組やその進捗状況を内部・外部評価し、その結果を公表します。

取組内容は、継続して実施するもののほか新たな取組を「新規」、さらに充実を図る取組を「拡充」として示しています。各取組内容を着実に進め、方針ごとに設定した「成果目標」達成に向けて計画的に取り組みます。

6 外部評価有識者

■美術館協議会（任期：令和5年7月1日から令和7年6月30日）

	氏名	役職
会長	内田 いず美	元浜松市教育研究会美術科研究部顧問校長
委員	荒川 朋子	静岡文化芸術大学デザイン学部准教授
委員	石上 充代	静岡県立美術館学芸課長
委員	磯部 啓次	浜北文化協会副会長
委員	伊藤 公子	浜松市立北浜東幼稚園園長
委員	今田 徹	浜松市立村櫛小学校校長
委員	寛 有子	浜松学院大学現代コミュニケーション学部准教授
委員	山口 剛	浜松美術協会理事 日本工芸会会員

※役職は令和7年3月時点

■美術館協議会（任期：令和7年7月1日から令和9年6月30日）

	氏名	役職
委員長	今田 徹	浜松市立篠原小学校校長
委員	荒川 朋子	静岡文化芸術大学デザイン学部准教授（学科長補佐）
委員	伊内 弘康	浜北文化協会副会長
委員	石上 充代	静岡県立美術館学芸課長
委員	伊藤 典明	（公財）浜松・浜名湖ツーリズムビューロー事業部長
委員	笥 有子	浜松学院大学現代コミュニケーション学部准教授
委員	佐藤 聖徳	静岡文化芸術大学名誉教授
委員	鈴木 矢々	浜松市立笠井幼稚園園長

※役職は令和7年7月時点

7 来館者アンケート

浜松市美術館に来館していただいた方を対象にアンケート調査を実施し、展覧会の満足度や施設に必要なものなどについて、回答をいただきました。

（単位：人）

展覧会名	回答数
くまのパディントン展	178
みほとけのキセキ展	189
遠州の民藝展	86
藤井フミヤ展	320
ボローニャ国際絵本展	43
静岡県立美術館展	88
遠藤美香展	40
ハイジ展	203
名刀 太平を切り開く	128
北斎展	87
新・山本二三展	213
みほとけのキセキⅡ	118
はままつゆかりの洋画展	219
7人のミューズ展	218
小杉コレクション展	217
計	2,347

浜松市美術館運営についての考え方

令和7年8月改訂

浜松市美術館

〒430-0947 浜松市中央区松城町 100-1

TEL : 053-454-6801

Email : art-muse@city.hamamatsu.shizuoka.jp



HP



X(エックス)



Facebook



instagram